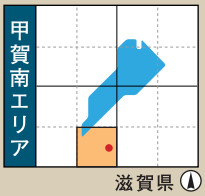
天然記念物

県指定

玉桂寺のコウヤマキ

信楽町勅旨　昭和49年3月11日指定



コウヤマキは日本特産の杉科の針葉樹で、本州の福島県より西、四国、九州に分布します。材は水に強く、風呂、桶、橋、船の用材として用いられ、古くから大切に育てられてきました。価値の高い樹木の代名詞である高野六木、木曽五木にも入っています。信楽谷の名刹、玉桂寺の境内に立つコウヤマキは、県内では数の少ないコウヤマキの巨木です。

玉桂寺のコウヤマキ

玉桂寺の本堂に登る石段の両側にあります。一見、大小数十の株があるように見えますが、もとは、1株ずつ2本植えられた親株だけでした。親株の下の枝が垂れ下がり地面に付いた所に根を下ろして子株となり、子株の枝から根を下ろした株が孫株となって、いつしか現在見られるような壮観な樹観を形成したのです。大正13年（1924）年頃に調査した際には、東側の親株は、樹幹約6.1m、高さ約31.5m、西側の親株は樹幹約4.64m、高さ約26.5mあったということです。弘法大師が1200年前に植えたという伝承がありますが、樹齢は500年から600年程度と考えられます。

県内でのコウヤマキの分布は少なく、信楽町の飯道山の花崗岩地に群落が見られる程度です。

前期古墳の埋葬施設に多い割竹型木棺（わりだけがたもっかん）は、コウヤマキの巨木を6～7m程に切り、これを半分に割り、中を刳り抜いて組み合わせたものです。かつては、各地にコウヤマキの巨木を見ることができたのかも知れません。



群生するように見えるコウヤマキ



玉桂寺の境内

玉桂寺について

玉桂寺の開基についてはよくわかっていませんが、寺伝によれば、奈良時代の末期に、藤原仲麻呂が中心となって整備した保良宮の跡地に、弘法大師が一堂を建立したことに始まるとされ、寺の本尊は弘法大師となっています。

玉桂寺に伝わる阿弥陀如来座像は、胎内から多量の納入物が発見されたことで有名になりました。納入品の多くは結縁交名（けちえんこうみょう）ですが、その中に仏像の造立の由来のわかるものが含まれていました。「源智阿弥陀如来造立願文」で、これには、僧源智が法然の一周忌にあたり、建暦2年（1212）12月24日に造像し、像内に結縁した数万人の名を納め、その極楽往生を願ったものであることが記されています。鎌倉時代の仏像の造像経緯のわかる貴重な作品として、重要文化財に指定されています。



玉桂寺のコウヤマキ

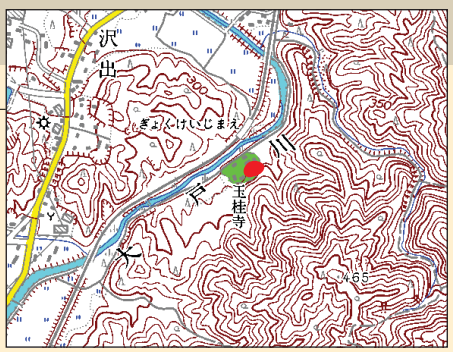
関連する文化財

甘泉寺のコウヤマキ （愛知県作手村）	作手高原中央部に建つ甘泉寺の境内にある。幹囲6.25m、高さ27m余りのコウヤマキで、樹容の整ったコウヤマキの代表樹として天然記念物に指定されている

もっと深く知りたい

信楽町教育委員会　☎0748-82-1121　甲賀郡信楽町長野1203

玉桂寺のコウヤマキへのアクセス　信楽高原鉄道　玉桂寺前下車



【参考文献】〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月